

特定健康診査・特定保健指導実績報告書

平成22年度版

(平成21年度実績)

東京都北区

区民部国保年金課



目 次

第 1 章 計画と目標

1 特定健診等実施計画	1 頁
2 目標設定	1 頁
3 実施機関	1 頁
4 案内方法等	2 頁
5 事業の所管	2 頁
6 人口・被保険者推計	2 頁

第 2 章 特定健診・特定保健指導の実施結果

1 特定健診の実施結果	
①-1 受診率	4 頁
①-2 男女別・年齢別の受診率	5 頁
②-1 受診結果	6 頁
②-2 男性の受診結果	7 頁
②-3 女性の受診結果	7 頁
②-4 年齢別受診結果	8 頁
③ 服薬の状況	9 頁
④ 該当項目別の状況	10 頁
2 特定保健指導の実施結果	11 頁
3 まとめ	13 頁

第1章 計画と目標

1 特定健診等実施計画

国は、これまでの老人保健法に基づく基本健康診査（以下「基本健診」という。）を廃止し、国民医療費の中で大きなウエイトを占める糖尿病等の生活習慣病を予防するため、内臓脂肪症候群（以下「メタボリックシンドローム」という。）に重点をおいた「特定健康診査」（以下「特定健診」という。）、「特定保健指導」の実施を各医療保険者に義務づけた。

これに基づき、平成20年3月、北区は「東京都北区国民健康保険特定健診等実施計画」を策定した。期間は、5年を1期とし、5年ごとに見直しを行う。第1期は、平成24年度までとしている。

2 目標設定

国が定めた目標値によれば、平成24年度における国民健康保険被保険者の特定健診受診率を65%、特定保健指導実施率を45%とし、メタボリックシンドロームの該当者・予備群を平成20年度に比べ10%減少させることとしている。

北区における年度ごとの目標率は、国が「特定健康診査等基本指針」で示した目標率を基準に下表のとおりとした。

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
特定健診受診目標率	45%	50%	55%	60%	65%
特定保健指導実施目標率	10%	15%	25%	35%	45%
内臓脂肪症候群の該当者・予備群の減少率	—	—	—	—	10%減少

3 実施機関

平成21年度も特定健診及び特定保健指導は、被保険者が身近な場所で気軽に受けることができ、かつ保険者の事務の効率が図れるように北区医師会に委託した。

(1) 特定健診の委託先と実施場所

- ①委託先 : 東京都北区医師会
- ②実施場所 : 東京都北区医師会に加入する各医療機関 (145医療機関)
- ③実施時期 : 6月10日～9月30日
- ④特定健診の自己負担金

健診費用は、医療費に自己負担があるのと同様に、本来は受診者が一部を負担

することが原則であるが、これまで基本健診を無料で実施してきたことなどにより被保険者の自己負担金を無料とした。

(2) 特定保健指導の委託先と実施場所

- ①委託先 : 東京都北区医師会
- ②実施場所 : 東京都北区医師会に加入する各医療機関（87医療機関）
- ③実施時期 : 10月～12月に初回面接を実施。その後、約6か月にわたり指導を行う。

④特定保健指導の自己負担金

国は特定保健指導についても自己負担金を求めることができるとしているが、指導を受けやすいように利用者の自己負担金を無料とした。

4 案内方法等

平成21年度も、北区ニュース及びホームページに掲載し、受診対象者に特定健診受診券、特定保健指導利用券を個別に送付した。

5 事業の所管

本事業は、国民健康保険を所管する区民部国保年金課の事業であるが、区民にわかりやすく効率的に事業を行う必要から、平成21年度も特定健診は「健康いきがい課」に執行委任した。

6 人口・被保険者推計

(1) 北区の人口推計

単位（人）

	20年4月	21年4月	22年4月	23年4月	24年4月
住基登録者	317,949	319,470	318,597	318,155	319,026
外国人登録者	15,021	15,743	15,862	16,322	16,723
計	332,970	335,213	334,459	334,477	335,749

(2) 北区国保の被保険者の推計（40～74歳）

単位（人）

	20年4月	21年4月	22年4月	23年4月	24年4月
男	32,818	32,566	32,622	32,027	31,504
女	35,904	35,895	35,564	34,404	33,371
計	68,722	68,461	68,186	66,431	64,875

（22年4月以降の数值は、同年3月末の被保険者数から推計）

※特定健康診査の対象者は、4月1日以降に転入・資格取得した方も対象となるため、受診対象者は、推計数值より多くなる。

(3) 平成24年度までの特定健診受診者及び特定保健指導実施者数見込み
（数值目標）

単位（人）

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
特定健診受診者数	32,500	35,700	37,500	39,800	42,200
特定保健指導実施者数	720	1,200	2,350	3,400	4,700

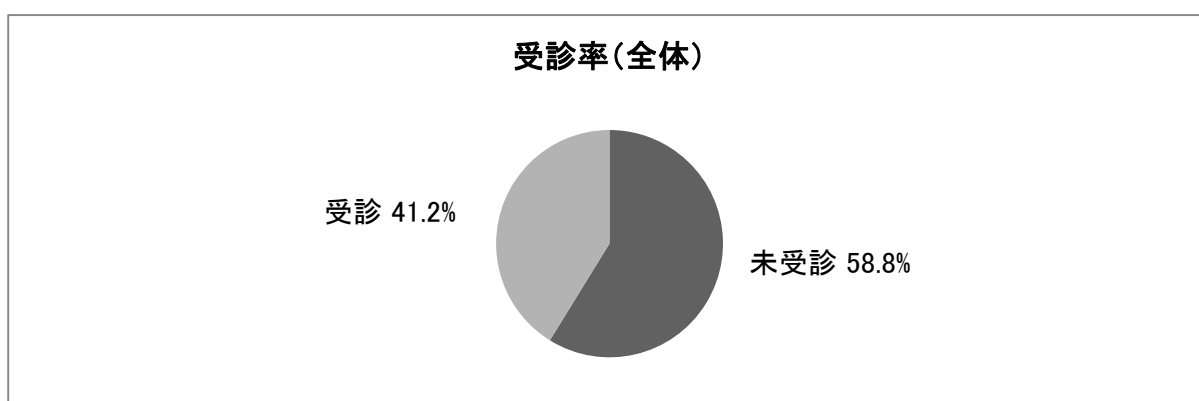
第2章 特定健診・特定保健指導の実施結果

1 特定健診の実施結果

①-1 受診率

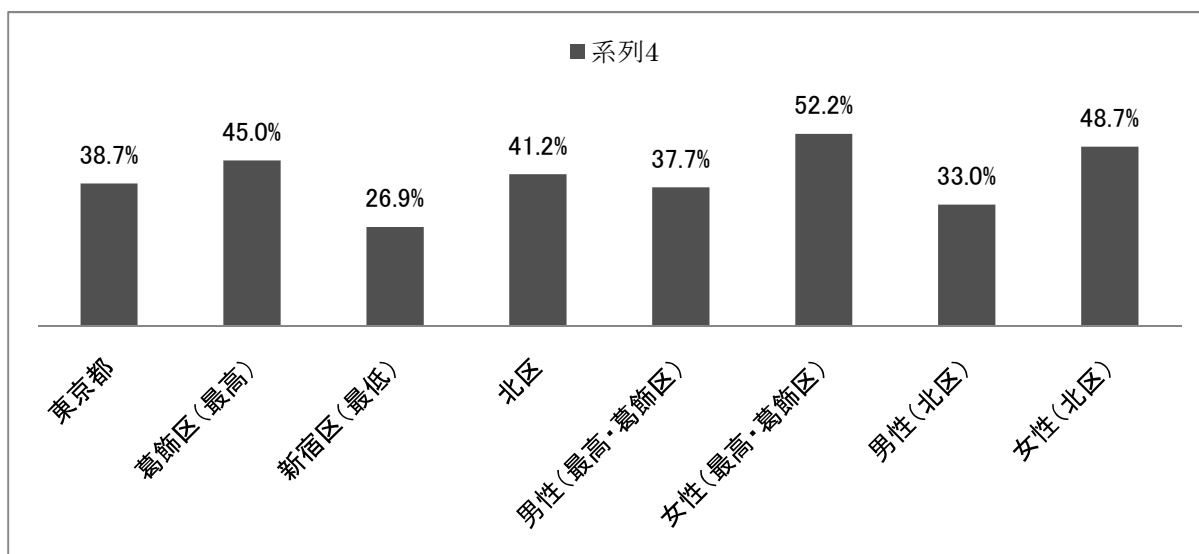
北区の受診率は、昨年度同様 41.2%であった。

健診対象者数(人)			受診者数(人)			受診率		
男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
33,674	36,689	70,363	11,113	17,857	28,970	33.0%	48.7%	41.2%



東京都国民健康保険団体連合会の調査では、北区の受診率は、23区中12位。男性は12位、女性は7位。東京都の特別区平均受診率38.7%をいずれも上回ったが、目標値はクリアできなかった。

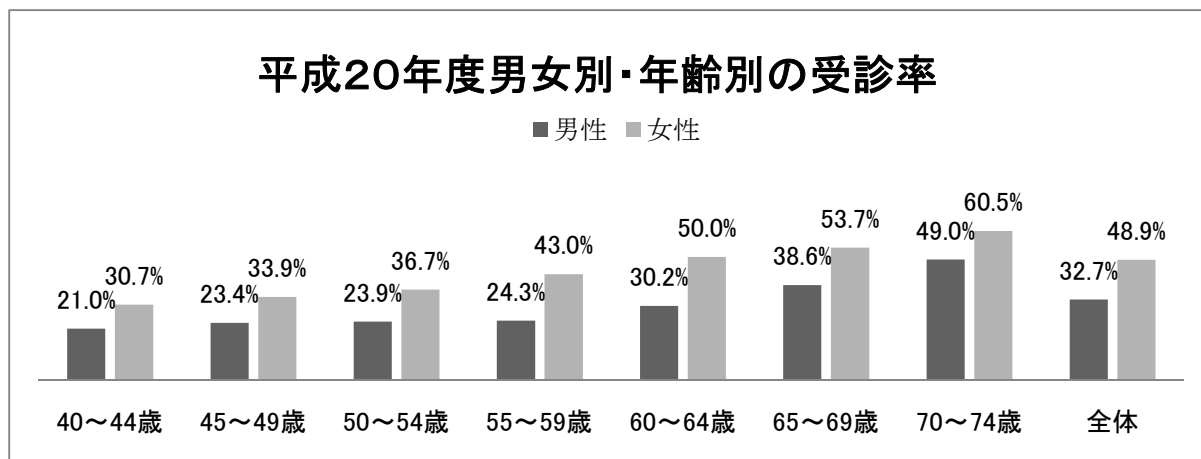
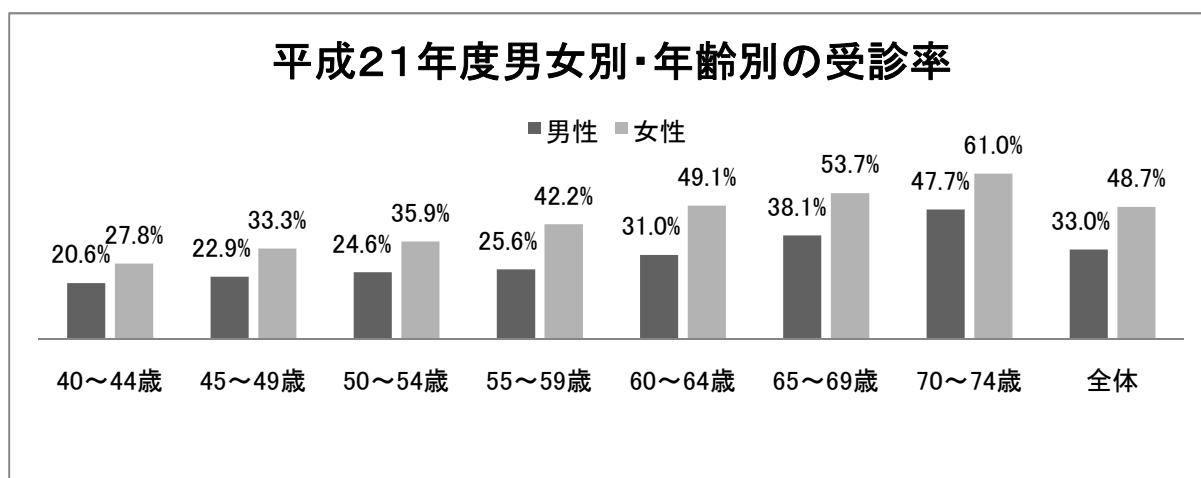
東京都特別区	38.7%	葛飾区(最高)	45.0%	新宿区(最低)	26.9%
男性(葛飾・最高)	37.5%	女性(葛飾・最高)	52.2%		



①-2 男女別・年齢別の受診率

全ての年代において女性の受診率が高い。また、年齢が上がるにつれて男女ともに受診率が上がる。

年齢	健診対象者数(人)			受診者数(人)			受診率		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
40～44歳	3,599	3,015	6,614	741	839	1,580	20.6%	27.8%	23.9%
45～49歳	3,134	2,768	5,902	718	923	1,641	22.9%	33.3%	27.8%
50～54歳	2,896	2,623	5,519	712	942	1,654	24.6%	35.9%	30.0%
55～59歳	3,938	3,761	7,699	1,010	1,589	2,599	25.6%	42.2%	33.8%
60～64歳	5,839	6,588	12,427	1,811	3,238	5,049	31.0%	49.1%	40.6%
65～69歳	7,105	8,390	15,495	2,707	4,508	7,215	38.1%	53.7%	46.6%
70～74歳	7,163	9,544	16,707	3,414	5,818	9,232	47.7%	61.0%	55.3%
計	33,674	36,689	70,363	11,113	17,857	28,970	32.7%	48.7%	41.2%

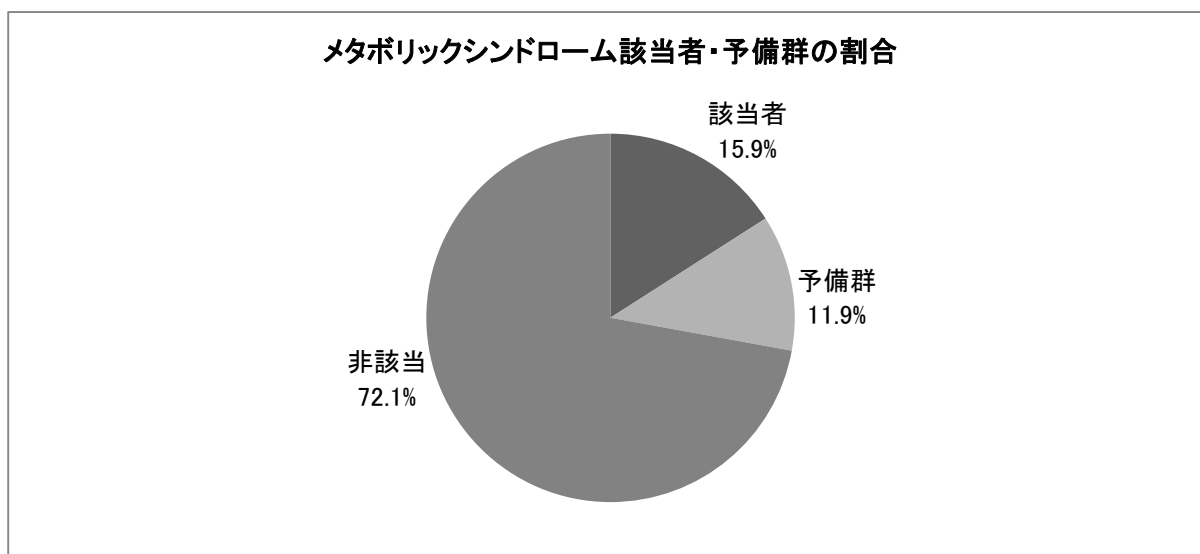


②-1 受診結果

特定健診の結果、受診者に占めるメタボリックシンドローム該当者及びその予備群の割合は27.8%であった。

非該当の中には、血液検査ができなかった等の理由により判定不能の者を含む。

該当者(人)	予備群(人)	非該当(人)	受診者数 計	割合		
				該当者	予備群	非該当
4,613	3,459	20,898	28,970	15.9%	11.9%	72.1%



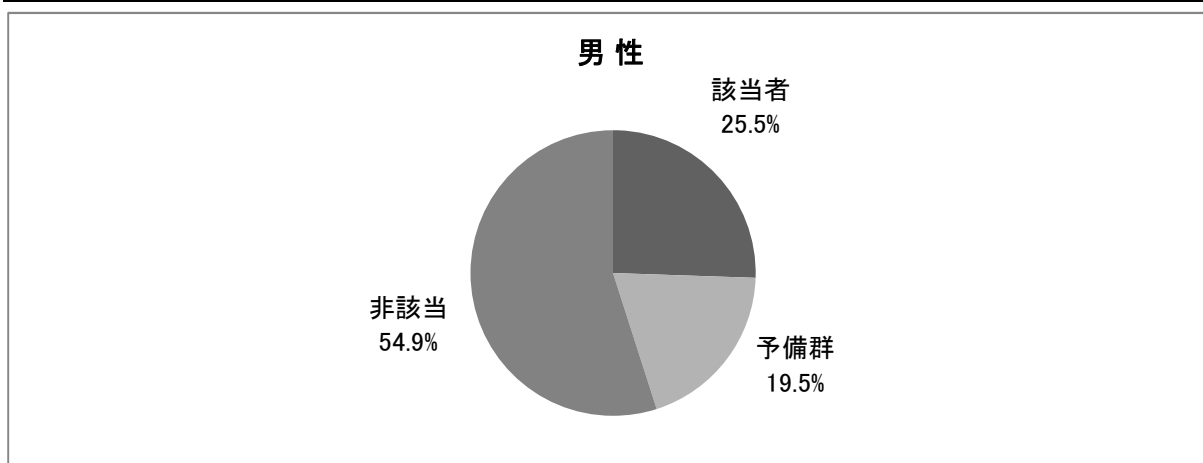
<メタボリックシンドローム判定基準>

健診区分		検査項目	判定値	メタボリックシンドローム判定			
A	計測	腹囲	男 85 以上	該当者	予備群		
			女 90 以上				
B	血圧	収縮期	130 以上				
		拡張期	又は 85 以上				
		又は、高血圧の服薬中					
C	脂質代謝	中性脂肪	150 以上	Aに該当し、 かつB～Dのうち 2項目以上に 該当	Aに該当し、 かつB～Dのうち 1項目に 該当		
		HDL コレステロール	又は 40 未満				
		又は、高脂血症の服薬中					
D	糖代謝	空腹時血糖	110 以上				
		ヘモグロビンA1c	又は 5.5 以上				
		又は、糖尿病の服薬中					

②-2 男性の受診結果

男性受診者のうち、45%がメタボリックシンドローム該当者及びその予備群であった。約2人に1人が該当する男性の平均的な結果（「平成20年国民健康・栄養調査結果」より）である。

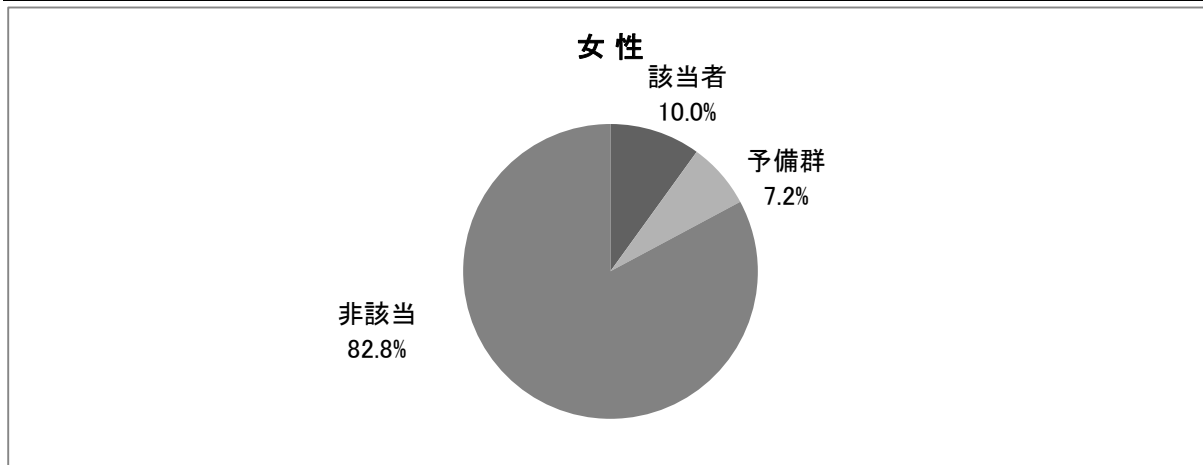
該当者(人)	予備群(人)	非該当(人)	男性受診者 計	割合		
				該当者	予備群	非該当
2,836	2,171	6,106	11,113	25.5%	19.5%	54.9%



②-3 女性の受診結果

女性受診者のうち、約17%がメタボリックシンドローム該当者及びその予備群であった。約5人に1人が該当する女性の平均的な結果（「平成20年国民健康・栄養調査結果」より）である。

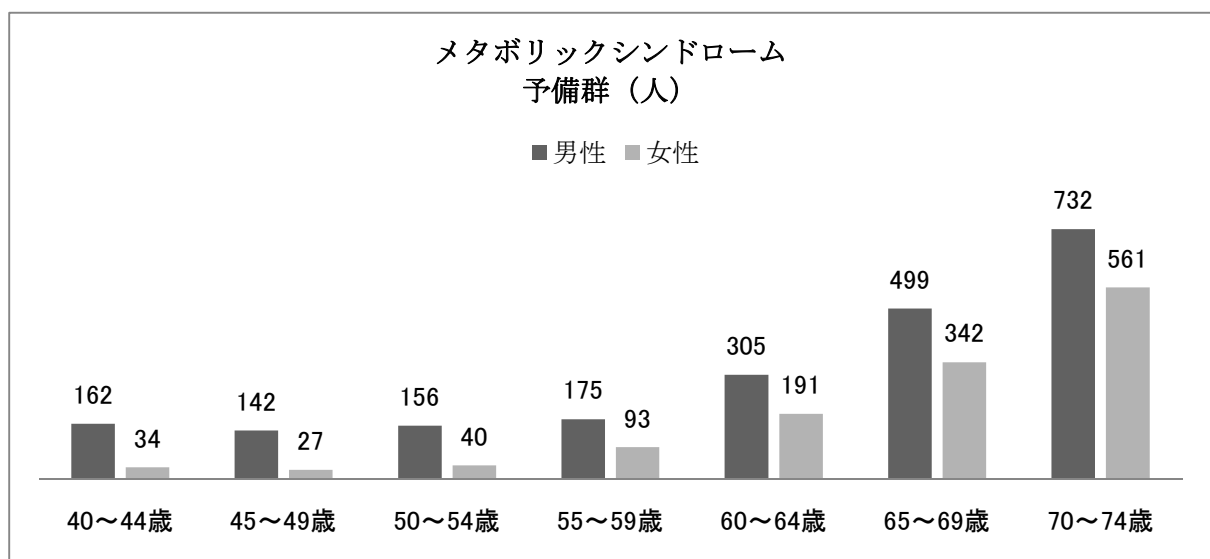
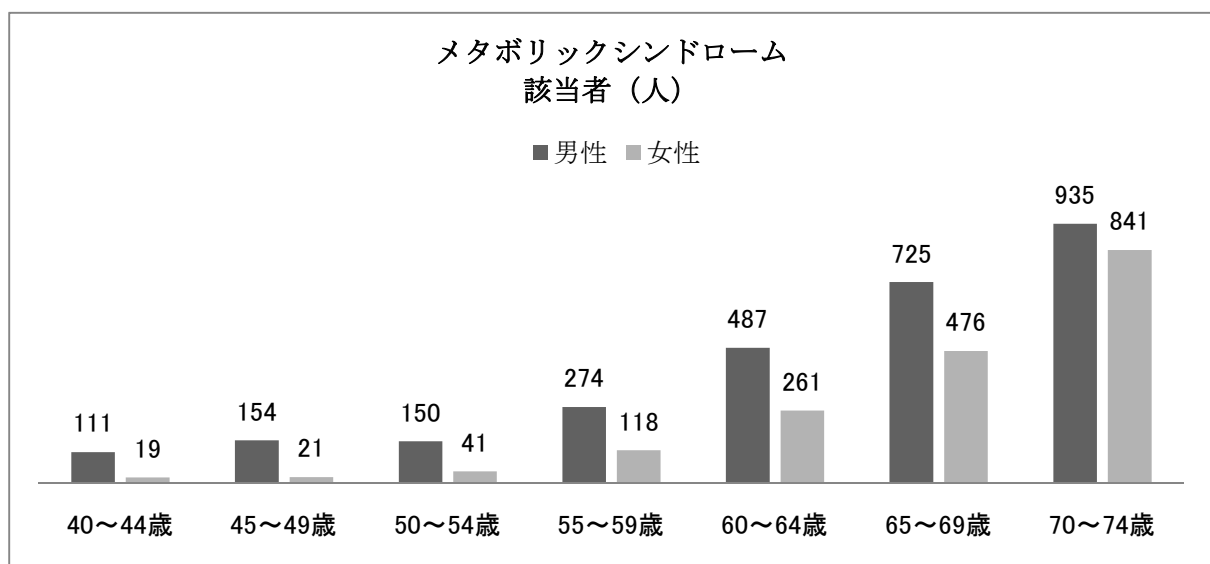
該当者(人)	予備群(人)	非該当(人)	女性受診者 計	割合		
				該当者	予備群	非該当
1,777	1,288	14,792	17,857	10.0%	7.2%	82.8%



②-4 年齢別受診結果

特定健診の受診率は女性が男性よりも高いが（P5 参照）、メタボリックシンドローム該当者及びその予備群の人数は、全ての年代において男性が女性を上回っている。

年齢	メタボリックシンドローム						割合(分母は受診者数)					
	該当者(人)		予備群(人)		該当者+予備群(人)		該当者		予備群		該当者+予備群	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
40～44歳	111	19	162	34	273	53	15.0%	2.3%	21.9%	4.1%	36.8%	6.3%
45～49歳	154	21	142	27	296	48	21.4%	2.3%	19.8%	2.9%	41.2%	5.2%
50～54歳	150	41	156	40	306	81	21.1%	4.4%	21.9%	4.2%	43.0%	8.6%
55～59歳	274	118	175	93	449	211	27.1%	7.4%	17.3%	5.9%	44.5%	13.3%
60～64歳	487	261	305	191	792	452	26.9%	8.1%	16.8%	5.9%	43.7%	14.0%
65～69歳	725	476	499	342	1224	818	26.8%	10.6%	18.4%	7.6%	45.2%	18.1%
70～74歳	935	841	732	561	1667	1,402	27.4%	14.5%	21.4%	9.6%	48.8%	24.1%

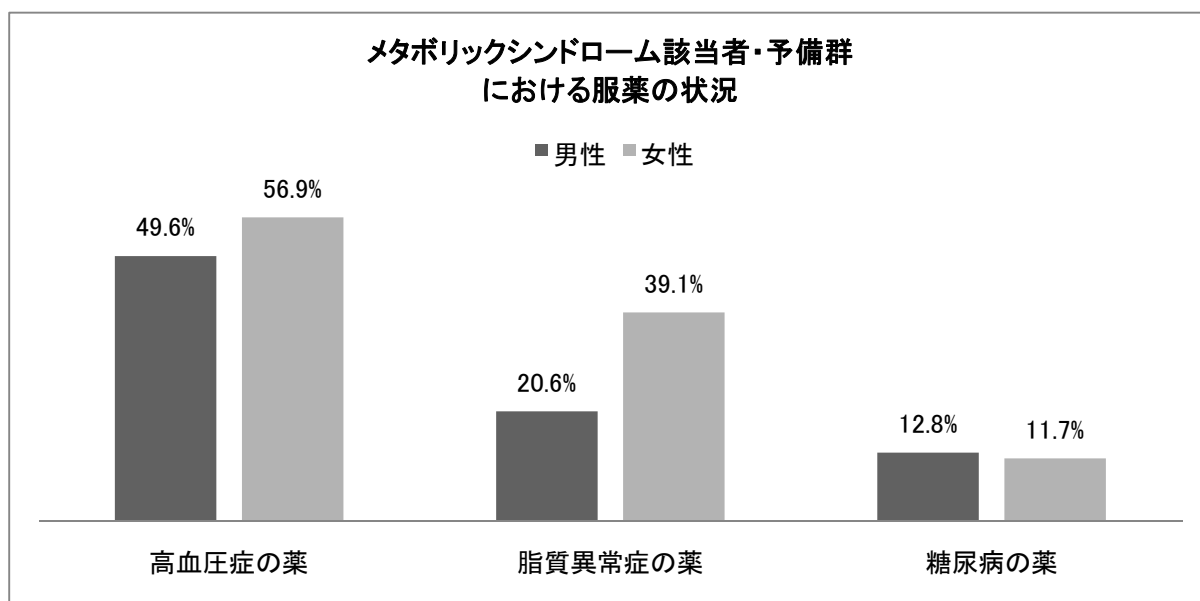


③服薬の状況

メタボリックシンドローム該当者及びその予備群のうち、服薬の状況は下記のとおりである。

- 男女ともに約半数が高血圧症の薬を服用している。
- 脂質異常症の薬を服用している人数の割合は、女性が男性の約2倍となっている。
- 糖尿病の薬を服用している人数の割合について、男女差はない。

服薬の種類	服薬者(人)		割合 (分母は男女別のメタボリックシンドローム該当者+予備群の合計数)	
	男性	女性	男性	女性
高血圧症の薬	2,483	1,743	49.6%	56.9%
脂質異常症の薬	1,029	1,197	20.6%	39.1%
糖尿病の薬	642	360	12.8%	11.7%



④該当項目別の状況

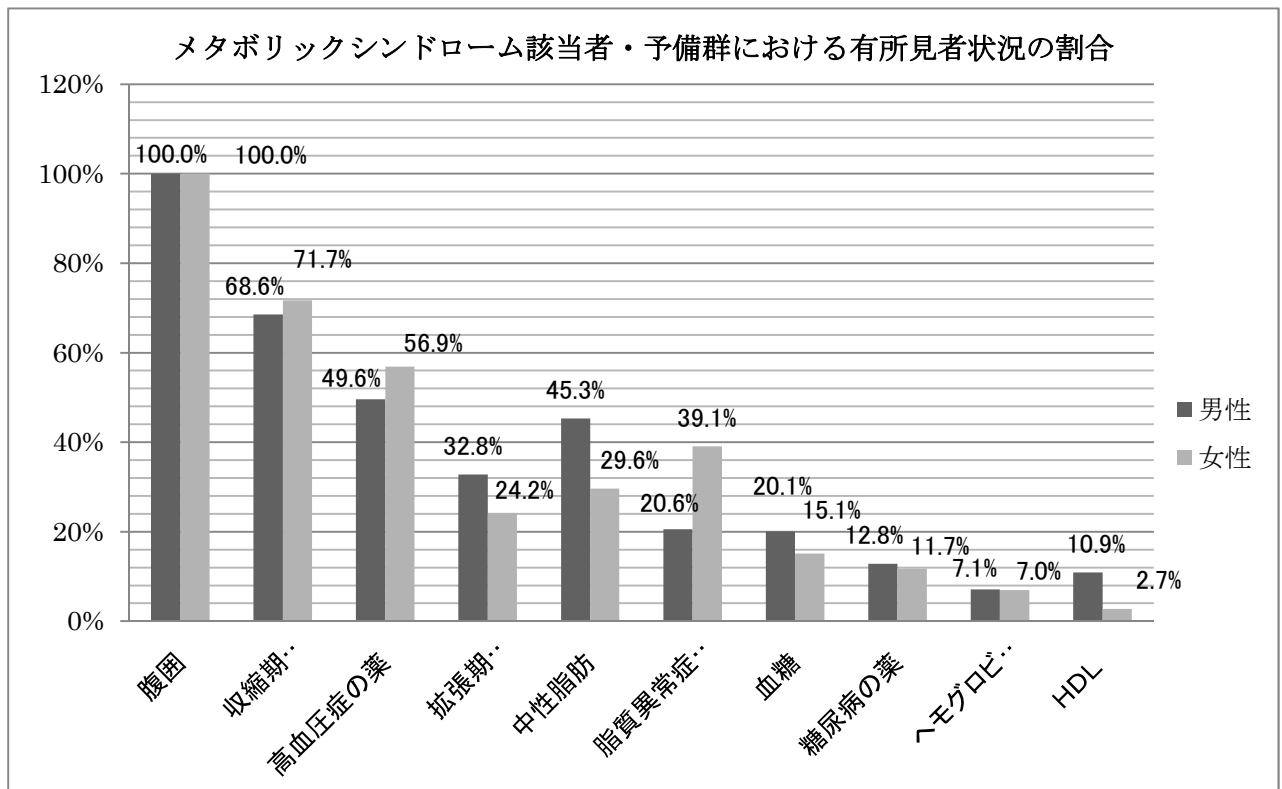
メタボリックシンドローム該当者及びその予備群のうち、各項目に該当した人数と割合は、次のとおりである。

昨年同様に血圧に関する事項に該当する者が多かった。

単位(人)

	腹囲	収縮期 血圧	高血圧 症の薬	拡張期 血圧	中性 脂肪	脂質異 常症の 薬	血糖	糖尿病 の薬	ヘモグロ ビン A1C	HDL
	男 85 以上 女 90 以上	130 以上	服薬中	85 以上	150 以上	服薬中	110 以上	服薬中	5.5 以上	40 未満
男性 (人)	5,007	3,433	2,483	1,640	2,268	1,029	1,004	642	355	545
女性 (人)	3,065	2,197	1,743	741	908	1,197	463	360	214	84

割合(分母は男女別のメタボリックシンドローム該当者+予備群の合計数)										
	腹囲	収縮期 血圧	高血圧 症の薬	拡張期 血圧	中性脂 肪	脂質異 常症の 薬	血糖	糖尿病 の薬	ヘモグロ ビン A1C	HDL
男性	100.0%	68.6%	49.6%	32.8%	45.3%	20.6%	20.1%	12.8%	7.1%	10.9%
女性	100.0%	71.7%	56.9%	24.2%	29.6%	39.1%	15.1%	11.7%	7.0%	2.7%



2 特定保健指導の実施結果

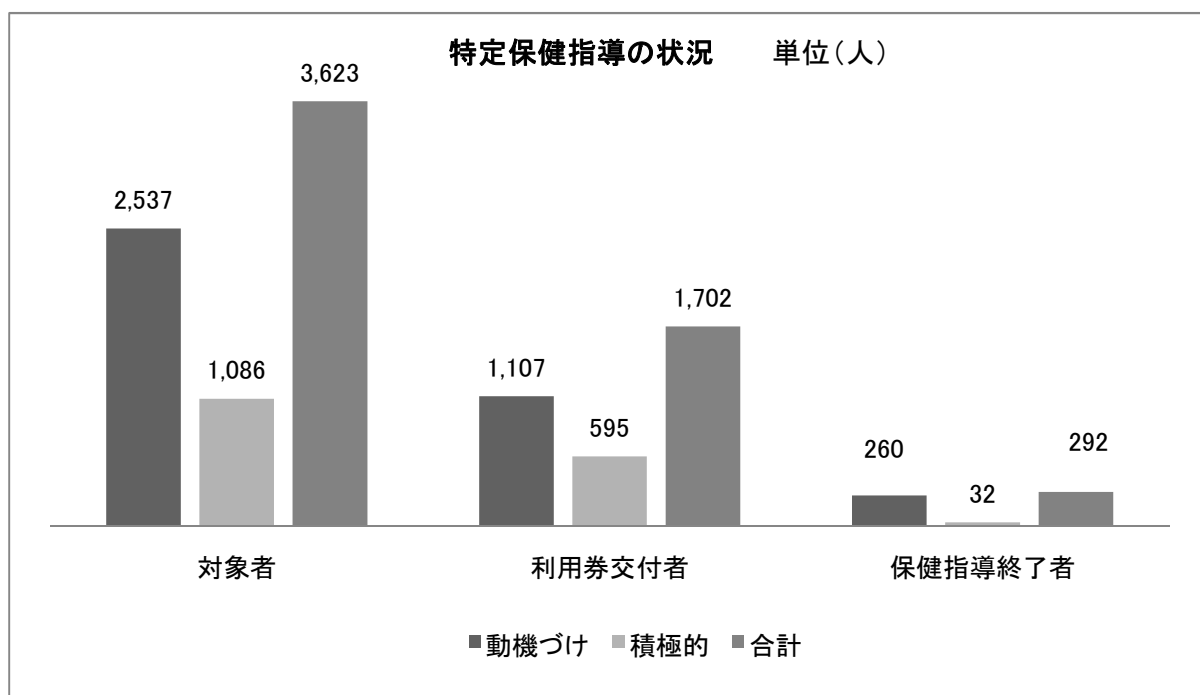
平成21年度も、基本的には特定健診実施時点において特定保健指導を希望すると回答した者に利用券を交付した。対象者に対する実施率は8%である。

今回も、特定保健指導を希望する者に利用券を交付したものの新型インフルエンザ等の影響もあり多くの辞退者があった。

しかし、実際特定保健指導の効果については、特定保健指導終了者の約61～66%に体重または腹囲減少の効果が見られ、体重・腹囲ともに減少した者は約50%であり、特定保健指導の効果は大きい。

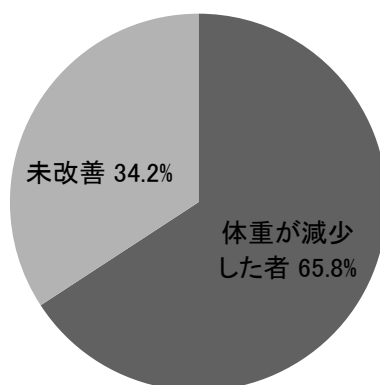
なお、最も体重が減った者は体重が10kg減、最も腹囲が減った者は腹囲が16cm減であった。

支援区分	対象者 (a)	利用券交付者 (b)	保健指導終了者 (c)	利用率 (c/b)	実施率 (c/a)
動機づけ	2,537人	1,107人	260人	23.5%	10.2%
積極的	1,086人	595人	32人	5.4%	2.9%
合計	3,623人	1,702人	292人	17.2%	8.1%

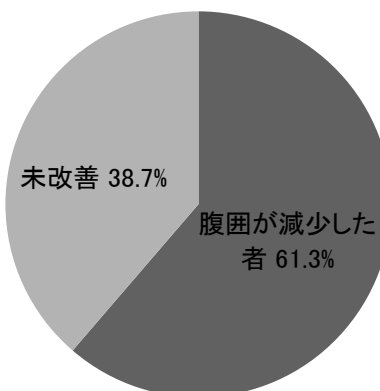


支援区分	保健指導 終了者	体重が減少した者		腹囲が減少した者		両方減少した者	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
動機付け支援	260人	169人	65.0%	158人	60.8%	129人	49.6%
積極的支援	32人	23人	71.9%	21人	65.6%	18人	56.3%
合計	292人	192人	65.8%	179人	61.3%	147人	50.3%

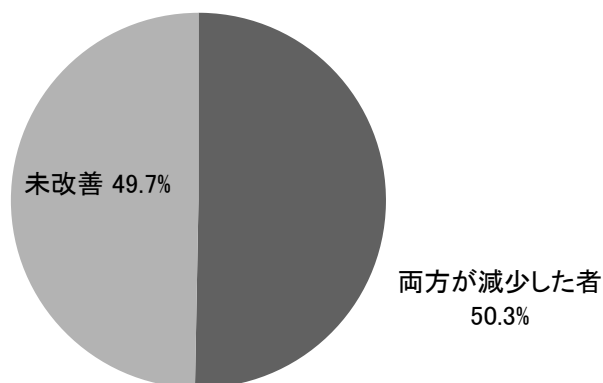
**特定保健指導効果
(体重)**



**特定保健指導の効果
(腹囲)**



**特定保健指導の効果
(体重+腹囲)**



3 まとめ

疾病順位	2008年	2009年	2010年
1位	糖尿病	その他心疾患	その他心疾患
2位	その他心疾患	糖尿病	高血圧
3位	高血圧	高血圧	糖尿病
4位	脳梗塞	脳梗塞	脳梗塞
5位	虚血性心疾患	虚血性心疾患	虚血性心疾患

	年齢層	疾病順位1	疾病順位2	疾病順位3	疾病順位4	疾病順位5
2008年 疾病別内訳	40～49	糖尿病	その他心疾患	高血圧	虚血性心疾患	その他脳
	50～59	糖尿病	その他心疾患	高血圧	虚血性心疾患	脳梗塞
	60～69	高血圧	糖尿病	その他心疾患	脳梗塞	虚血性心疾患
	70～74	糖尿病	その他心疾患	高血圧	脳梗塞	虚血性心疾患
2009年 疾病別内訳	40～49	糖尿病	高血圧	その他心疾患	虚血性心疾患	脳内出血
	50～59	糖尿病	高血圧	その他心疾患	脳梗塞	虚血性心疾患
	60～69	糖尿病	その他心疾患	高血圧	虚血性心疾患	脳梗塞
	70～74	その他心疾患	高血圧	糖尿病	脳梗塞	虚血性心疾患
2010年 疾病別内訳	40～49	その他心疾患	高血圧	糖尿病	脳内出血	その他脳血管
	50～59	高血圧	その他心疾患	糖尿病	虚血性心疾患	その他脳血管
	60～69	糖尿病	高血圧	その他心疾患	脳梗塞	虚血性心疾患
	70～74	高血圧	その他心疾患	糖尿病	脳梗塞	虚血性心疾患

(東京都国民兼保険団体連合会・統計分析資料から転用) 平成 22. 11. 1 現在

平成 21 年度の特定健診の結果、男性は約 2 人に 1 人、女性は約 4 人に 1 人がメタボリックシンドロームの該当者又はその予備群であった。

また、特定保健指導の実施により、利用者の 6 割を超える方々に体重や腹囲の減少が見られたことは大きな成果であり、今後も利用率の向上により区民を健康に寄与するという目標を推進していく。

一方、特定健診受診者や特定保健指導利用者の人数は、新型インフルエンザの流行期と重なり、当初の目標を大きく下回った。

上記の図からもわかるように、特定保健指導の効果は大きいとわかっているが、それが伝わらなくては受診者や利用者の増加は見込めない。

今後は、下記の対策を講じて受診者や利用者の増加を目指していく。

- イベントの実施、受診促進のお知らせ通知など、普及啓発の充実を図り、特定健康診査及び特定保健指導への理解と関心を高める活動を強化する。
- 健診期間の延長や協力医療機関数を増やし、利用者の利便性を高める。
- 特定保健指導実施前に、電話等による勧奨や受診対象者に向けて「初回面接のご案内」を個別に周知する。
- 受診者が健診結果説明を受けてから特定保健指導を利用するまでの期間短縮に努め、特定保健指導の対象となる受診者の健康に対する意識や特定保健指導への参加意欲が時間の経過により薄らぐのを防ぐ。